＜巻　頭　言＞

年頭のご挨拶

坂　本　忠　彦*

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり会員の皆様のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げます。

昨年はまことに多事多難な年でありました。３月11日には東北太平洋沖地震が発生，地震による被害に加え，大津波の来襲，さらにはこれに起因する福島第一原子力発電所事故が起き，東日本大震災と名付けられる大惨事となりました。７月には新潟・福島豪雨が発生しました。人的被害に加え，29ヶ所の水力発電所が運転中止となり，福島第一原子力発電所事故による電力危機と相まって電力需要が逼迫する事態となりました。８月には台風12号が紀伊半島に豪雨をもたらし，多数の山腹崩壊が発生，大規模なものは熊野川などをせき止め，土砂ダムとなりまだその本格的復旧は手探りの状態です。

一方海外ではタイ国で大水害が発生して多くの工業団地が水没し，さらに首都バンコクが水没するか否かと世の注目を浴びました。ドイツでは記録的な渇水でライン川の水位が低下して，第二次世界大戦中の不発弾が発見されるなどの椿事が起きました。このような洪水及び渇水の防止にダムの果たす役割が重要なことは言を待ちません。

東日本大震災では危機管理の重要性が再認識され，将来のエネルギー確保の手法の議論が行われる事態となりました。９月に発足した野田内閣は「中期的には原発への依存度は可能な限り引き下げていく」との方針を示しています。菅前総理大臣の最後の仕事として成立した「電気事業者による再生可能エネルギー電気の調達に関する特別措置法」により，太陽光，風力，地熱，小水力などの全量固定買い取り制度が発足することとなりました。太陽光，風力などに世間の関心は集中していますが，低価格で太陽光などに比較すれば１箇所当たりの出力の大きい水力をまず開発するのが順序でしょう。この分野で我々ダム技術者が大いに寄与できることは自明のことです。

ダム事業の見直しの焦点となっている八ツ場ダムについては前田国土交通大臣が10月に現地を視察されました。12月には関東地方整備局が開催した事業評価監視委員会が「事業継続が妥当」との方針を示し，国土交通本省に報告することとなり，平成24年度予算での取り扱いが注目されています。

さて，当会の昨年の活動を振り返ってみますと５月末にスイスのルツェルンで開催された国際大ダム会議第79回年次例会への参加が最大のイベントでした。世界約

* 一般社団法人日本大ダム会議 会長・日本工営㈱ 顧問

70カ国余より約1,000名の参加を得て開催され，わが国からは68名が参加し，技術委員会での討議，シンポジウムでの論文発表，日本ブースの展示など活発な活動が行われました。また，来年のICOLD京都の運営の参考にするため，例会の運営状況をつぶさに観察するなど大きな成果が得られました。総会で私はICOLD2012京都の開催計画と京都は原発事故とは無関係であることを説明し，各国からの参加を求めました。VIVO事務局長（フランス）は「ダムグループの連帯でICOLD2012京都を成功させよう」と会場に呼びかけ，参加者一同の温かい拍手でJCOLD案が了承されました。また当会松本徳久常務理事が東北太平洋沖地震とダム被害の関係についてシンポジウムで講演され，高い関心を呼びました。

10月には第７回東アジア地域ダム会議（EADC）が２年ぶりに中国鄭州で開催され日本からは22名が参加しました。また11月にはダム工学会との共催によるダム現地見学会が韓国の漢灘江ダム，群南ダムにおいて行われ35名が参加し，日本の開発したRCD工法が韓国で施工されている状況を見学し，大きな勉強となったところです。

９月初旬にICOLD総裁JIA氏（中国）及びVIVO事務局長がICOLD2012京都の事前視察に来日されました。同時にICOLD副会長４名も参加したICOLD幹部会も開催され，ICOLD2012京都の開催計画が検討され，会場配置，輸送計画，低価格ホテルの充実などについて要請がありましたが，開催計画は承認されました。特にメイン会場の京都国際会館の設備については高い評価を受けたところです。

会員各位のご協力によりICOLD2012京都の準備は順席に進んでおります。ICOLD2012京都のFinal Bulletinが完成し，12月初旬よりインターネットで閲覧を可能にするとともに参加登録の受付を開始いたしました。12月中旬には印刷物を各国国内委員会をはじめとする関係機関及び関係者に配布し，多くの参加者を募集しているところです。既にかなりの登録を受け付けましたが早期割引のある２月末日までにできるだけ多くの参加者を確定したいと考えています。

ICOLD2012京都の国際シンポジウムは，日本提案によるものですが，約350編の論文提出がありました。東北太平洋沖地震とダム被害の関係，紀伊半島集中豪雨による土砂ダム問題等のトピックについての講演も予定しており，有意義なものになると確信しております。

現在ICOLD2012京都の成功に向けて最大限の力を注いでいるJCOLDですが，国内の通常活動につきましても，企画委員会，技術委員会，国際分科会をはじめ様々な委員会活動，ダム技術講演討論会，見学会等も順調に実施してまいりました。また，本年１月より，各種手続きを経て一般社団法人として再出発することとなりました。会員の皆様，関係者の皆様のご努力に深く敬意を表しお礼申し上げます。

本年もどうぞよろしく御願い申し上げ，年頭のご挨拶といたします。